

Front  
[前面]

Rear  
[背面]



1 2 3 アメイジングZガンダムの前、背、側面。A-Zガンダムから形状の姿は無いものの、カラーリングを一新することによってその印象をがらりと変えた。A-Zガンダム自体がZガンダムからイメージチェンジを図った機体だけに、全身赤系統への色変化はよりその効果を出し、Zガンダムと昔よりはZZガンダムに登場したパワを想起する読者もいるのではないだろうか。ガンプラにおいて、カラーチェンジは想像以上の効果を示す手段であることが良くわかるだろう。



3代目アメイジング・カワグチが海外遠征用に製作したZガンダムベースのガンプラ。火力と推進力を極限まで発揮させる設計がなされた。粒子対応塗料の採用など最新技術も数多く投入されており、総合性能は計り知れないレベルにまで到達している。



## アメイジングZガンダム

制作文／メイジン・カワグチ

長い海外遠征を終え、帰ってきた3代目メイジン・カワグチの手にあったのは、見慣れたはずのシルエットと、見慣れぬカラーリングのガンプラだった！もちろん本誌では徹底した取材を敢行、ビルダーのメイジンご本人に、その「アメイジング」な正体を明かして頂こう!!

1/144 SCALE PLASTIC KIT "HIGH GRADE:SCRATCH"  
MODELED BY MEIJIN KAWAGUCHI

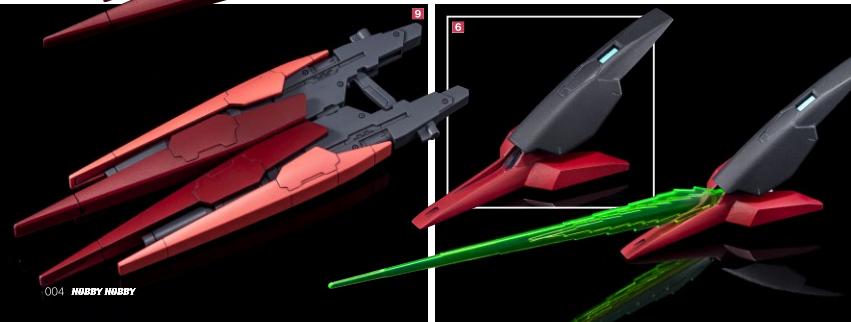


M S Z - 0 0 6 A Z

ツインハイパー・メガランチャーを構えたアメイジングZガンダム。メイジンが駆るガブリは時に高速移動によって周辺のラフテキ・粒子を圧縮し、その身を赤色化させる「紅の彗星」現象を引き起すとされるが、初めから紅の彗星を体現しているこの機体のカラーリングならば、どのような補き方を見てくれるのだろうか。



①ビームサーベルシールドは、左手前腕部に装備する攻防一体型兵器。防御機能こそ独創的だが、粒子対応涂料で表面仕上げされたシールド表面は通常の攻撃では物理的な傷を付けることすら叶わない。②ヒード先端部からは巨大なビームサーベルを展開。③ベース機のオプション兵装であるハイパー・メガランチャーをベースアームアタッチした時の携行火器。ソイインハイパー・ガランチャー。広域の前射射撃を行える他にも、連装タイプへ合体させれば強力な決戦武具となる。



# AMAZING Z GUNDAM

M S Z 6 A Z

分離させたツインハイパー・ガランチャーをフライング・ブースターに接続することで射撃が可能になるA-Zガンダム最大火力の長距離射撃モードは、「アメイジング・ガランチー」名を変え、本機にも搭載されている。メイジ曰く、「あまりに強力すぎて海外進出では一度も使用しなかった」そうだが、実は一度だけ使用したことがあるという疑ひかけのようなコメントを残してくれた。



A-Zでは既存のガンダムの魅力を伝える、そしてこの赤いアメイジング・ガランチーが固定観念に囚われない新たなガンダムの魅力に気付いたためのきっかけになってくれれば幸いである。ガンブルラは「バトルするためだけのボーリーではない、その中にある無限の想像力を、手軽に実現化できる素晴らしいツールでもある。私は何度も唱えよう、ガンダムは、ガンブルラは自由なのだ。

多くのガンダム作品に触れてきた皆様には、それぞれに抱く確かなガンダム観があるはずだ。先述の赤いアメイジング・ガランチーは今までなくてはならないといふ固定観念とともに……しかし、そのキャラクターにまだ絆められてはいるであろう素晴らしさを見出せないと私は考える。

A-Zでは既存のガンダムの魅力を伝える、そしてこの赤いアメイジング・ガランチーが固定観念に囚われない新たなガンダムの魅力に気付いたためのきっかけになってくれれば幸いである。ガンブルラは「バトルするためだけのボーリーではない、その中にある無限の想像力を、手軽に実現化できる素晴らしいツールでもある。私は何度も唱えよう、ガンダムは、ガンブルラは自由なのだ。

らないだろつ。

本記事内では紹介していないが、分離させたツインハイパー・ガランチーをフライング・ブースターに接続することで射撃が可能になるA-Zガンダム最大火力の長距離射撃モードはアメイジング・ガランチーと名を変え、本機にも搭載されている。メイジ曰く、あまりに強力すぎて海外進出では一度も使用しなかった。そうだが、実は一度だけ使用したことがあるという疑ひかけのようなコメントを残してくれた。



①②③可変シーケンス自体はベース機とほぼ変わることは無いが、各バージョンのレイアウト変更によって機能特性や攻撃性能はメイジのバルスタイルにより深く劇変する方向性へと偏っている。単なる長距離巡航機能としてではなく、本機のWRモードは相手を襲撃するためのかなり一手なものである。④機首などはツインハイパー・ガランチーは、本モード時でも同様に攻撃が可能だ。⑤先端の光刃発生機構は、WRモード時で本体を発揮する。そう、ベース機の中で発せた最後の一撃を想起させる。巨大光の扇角となるのだ。⑥増設されたフューラー群が生み出す機動性能の程は、推して知るべし。

ベース機最大の特徴であるWR(ウェイブライナー)モードへの変形機能はもちろん現在まで実現している。⑦フライングブースターとビームサーベルアーマーの協調的な形状によって、そのフルエクスパンションモード時に変形を避けた。